

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

【思考・判断・表現】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な改善策 （「主体的・対話的で深い学び」における）	手だての実施時期	年度末評価（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストで、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低い。 定期テストにおいて、中間層から下位層が多い傾向にある。基礎基本の定着に課題がある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間の共同的な学習の機会を増やすことで、対話的で深い学びにつなげる。 日常的な事象を教材として活用することで主体的に課題に取り組む工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 適宜 通年 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストで、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が極端に低い。 定期テストにおいて、中間層から下位層が多い傾向にある。基礎基本の定着に課題がある生徒が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びあい活動を充実させている。自分の解法を表現したり、友達の解法を聞いたりする機会を増やし、さらに読解の練習を増やしていく。 家庭学習の際に、繰り返し学習ができるように問題集を活用している。 		
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストで、「知識・技能」に関する正答率はやや高いものの、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低い。 定期テストにおいて基礎基本の定着に課題がある生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小問テストを繰り返すことにより、基礎基本の定着につなげる。 協同的な学びを実践することにより、他者の解法にも注目させ、表現力の向上を目指している。 テストの振り返りなど、家庭学習課題を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> 通年 通年 主に定期テスト後 	

■ICTを活用した授業にける改善策

- 1年 考え方や振り返りなど生徒の意見を共有する際にICTを活用し、生徒個々の意見を見やすくする工夫を行う
- 2年 テストの振り返り、単元の意味などを調べさせ考察させている。
- 3年 単元の学習意味を考え、共有する場とする。学習方法の共有に活用する。